

# 「共に学ぶ」障がいのある子どもと不登校児への学習支援と支援者の学び

子どもと家族・関係者の集まり ポン太クラブ  
〒885-0018 宮崎県都城市郡元2-8-12

## 助成事業の概要

障がいのある子どもや不登校児は、学習面でも困り感は多種多様で、学校の授業になじめない子どもがいる。学校と家庭での対応には限界があり、子どもの個性に合わせた学ぶ楽しみを味あわせる適切な環境設定が必要である。個別の学習支援を行うことにより、幅広い障がいの状態にある子どもや、悩みや不安を抱える不登校児がそれぞれの関わり方で楽しんで学習でき、達成感を味わえ、希望を持って自主的に生きていこうとする気持ちを養える。また、子どもの個性に合わせた学習支援をするため、保護者・支援者が共通理解を持ち共に学び子どもと一緒に支援していくために、保護者・支援者に対し学習会を行う。

### <学習支援>

対象者：障がいのある子どもや不登校の子ども、  
そのきょうだい（小学生～高校生）

実施時期：平成26年4月1日～平成27年3月31日  
毎週月曜日19:00～21:00（計41回）

### <学習会>

対象者：教員、療育関係者、学生、成人当事者、  
保護者など

実施日：年8回

## 事業の成果

<学習支援>学校や家での学習に困り感を持つ子ども達や不登校児が無理なく自由に参加することができた。子ども達に丁寧に対応することで学習の理解も進み、笑顔や会話も見られた。また、親

や先生には話せない悩みや辛さを支援者に話すことで、子ども達が安心して通える場となっている。子どもが楽しみながら学習・相談ができることから保護者も安心し、喜びの声が聞かれる。

### ●子ども参加者総計264名

<学習会>幅広い分野から講師をお招きし、子どもの成長や支援に関する様々な学習ができた。参加者も保護者だけでなく、療育・支援に関わる者の参加も多く、繋がりを広げることもできた。障がいのある子どもの身体的特性、心理的特性、発達の見通し等について学習することは、子どもの状態に対する保護者の視点を増やし、保護者の不安や心理的負担を軽減することに繋がった。保育や教育関係者においても、子どもの言動の意味を理解できるようになることは、子どもの困っている部分を想像し、保育と教育の対象となる課題を正確で明確なものにしていくことに繋がる。子どもに関わる者が、基本的な接し方から具体的な保育や学習指導方法までを広く学んだことは、子どもの育つ環境を望ましいものとし、障がいのある子どもと家族に心配される二次的な障がいを予防することに繋がる。また、子どもと周囲との関係改善にもつながり、さらに高次元での親和性・親密性を生むことにもなった。障がいに関連する福祉制度や支援事業、関係機関の利用方法などについて学んだことは、家族の経済的・心理的・身体的な負担を軽減し、社会的なつながりを育てることになった。関係者にとっても、他機関の事業内容を知ることによって連携の具体的な方法を検討することができた。また、以上のような内容を家族と関係者が共に学んだ中で、様々な交流が生まれた。

それは、共に地域に暮らす者同士として互いを理解し合うこと、それぞれにできることを広げていこうとすること等にもつながり、地域作りに資することになる。

●学習会参加者総計180名

## 成果の広報・公表

学習支援と学習会の案内・報告は、毎月、療育・関係機関等へのチラシの配布、会員・関係者へのメールでの送信、ホームページ、フェイスブック、みやこのじょうねっと等への掲載で行っている。

## 今後の展開

学習支援塾では、子ども達がなかなか1人では出来ない・取り掛かれない宿題も、学習支援者が子どもに合わせて丁寧に教えることで、子ども達の学習の理解度や自主的な学習意欲が向上しているので、そのまま継続していきたい。コミュニケーションの苦手な子ども達も学習支援者との信頼関係を築き、子ども同士同じ気持ちのわかる仲間としての友達関係もでき、ポン太塾が学習支援だけでなく、子ども達の居心地の良い居場所として存在している。子どもたちの学習面と精神面での支援をしていくには継続が必要であり、資金面の安定性が課題となる。

学習会では、単に知識を得るだけでなく、子ども達の個性に合わせた支援の仕方を学び、教員・支援者・保護者など、それぞれの立場で障がいについての理解を深め、困り感を抱える子ども達への支援へとつなげていくと同時に、もっと広報することで、多くの人に参加してもらい地域での障がいへの理解が広がるようにしていきたい。